

だから職員が辞めていく ダメな施設を選ばないために 17

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 耕一郎, 岡田, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/229

だから職員が辞めていく



ダメな施設を選ばないために

新しい介護方法は、迷信のような考えに支配されていることがあり、介護現場が中世の暗黒時代のようになるので、特に注意しなければならない。今回は就職先として老人ホームを選ぶ際のチェックポイントとして、新しい介護を追いかけ「新しい物好き」という問題を取り上げてみることにしよう。

うちの施設は先進的な介護を実践しているのに、別の施設や病院から利用者が移ってくる、問題行動が1カ月で落ち着いたり、話さなかった人が話すようになったり、寝たきりだった人が歩くようになった、などという現代の「奇跡」を、挨拶代わりに聞かされることがある。しかし、これは新しい介護のおかげでも、奇跡でもない。これらは、強制的に寝たきりを作るような悪い病院や老人ホームから、ごく普通の老人ホームに利用者が移ってきた時に、自然に本来の能力を発揮しただけである。しかし、このような非科学的な効果を吹聴する施設は、決して少なくない。

さて、いくら介護方法が素晴らしいとしても、現場の職員が実施する力を持っている

岡田耕一郎(おかだ・こういちろう) 経営大学経済学部教授。経営学博士。日本、ドイツ、スイスのマネジメント、ビジネス、介護サービスの組織マネジメントを研究。

の利用者に美しい個室に入ってもらったとしても、本人は積極的に活動出来ないし、またぼつんと一人で個室に放置されると、ひどく寂しい気分になって落ち込むことも心配される。

新しい介護方法(ユニックケアなど)は、普通はモデル事業として、試験的に介護現場で実践される。しかし、その効果の有無を検討するテスト方法がかなり怪しいので、結果は信用出来ないものになっている。例えば、新しい介護を実施

岡田浩子(おかだ・ひろこ) 社団法人「老人生活福祉士」の著書『老いずきであるという理屈のよう』は、別の利用者の中には、別の利用者との間に家族と区別がつかない、ので、声を掛けるときに困ると文句を言う人もいる。従って、職員は私服を着るべきであるという考え方は、あまり賢い考えではない。スウェーデンの老人ホームでは私服を着ていると言われているが、実際には私服の上に施設で定めるエプロンを着用している、日本の制服と変わらない。スウェーデンの方が常識的な発想だ。

また、新しい介護方法が実際に素晴らしいもので、多くの利用者に十分な効果を発揮出来たとしても、それを実際に日本中の多くの老人ホームでやってみると、なかなか成果が出ないもの。それは、新しい介護方法を試験的にやってみようという老人ホームは、進取の精神を持った意欲に

日新月异より改善の積み重ね

で提案され、それに飛びついて流行を追いかけている施設もかなりあるが、少しかじただけで、うまくいかないからと途中でやめてしまうことも多いようだ。始めてはやめ、始めてはやめでは、そこで日々の生活を送っている利用者はまったものではない。

その結果、その素晴らしい効果が、職員の数が増えたためなのか、職員をやる気させたからなのか、現状の問題点をあわせて改善したことによるものなのか、あいまいになってしま

さらに、新しい介護方法が、たとえ有効であったとしても、ごく限られた利用者には効果がない場合には、あまり有効であるとは言えない。効果がなかったそれ以外の利用者に対して、別の対応を検討することが必要である。寝たきり

「良い」老人ホームの証拠ではないのだ。それよりも、従来からの介護を少しずつ改善して、利用者の希望に一步步近づけることにこそ意義があるのではないだろうか。この点は重要なチェックポイントだ。

さて、「新しい物好き」は職員の制服にも表れるように、職員全員が制服ではなく私服を着ている老人ホームがある。老人ホームは注目しよう。

「新しい物好き」というのは、新しい介護より、常識的な介護をしているかに